

R5.3.23

有田医療圏 医療の状況

湯浅保健所 池田 和功

有田医療圏の人口推移推計

和歌山県	年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
有田	65-	24235	23820	23180	22356 ^{-6%}	21859	20616 ^{-13%}
	15-64	40242	34312	31226	28321 ^{-17%}	24978	22519 ^{-35%}
	0-14	8353	7176	6478	5866 ^{-18%}	5407	4947 ^{-31%}
	高齢化率	33.3	36.5	38.1	39.5	41.8	42.9

いずれの年齢区分も減少。65歳未満の減少スピードが速いため高齢化率は高くなる。

2025年以降
80歳以上の
み増加

和歌山県	年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
有田	総数	72873	65308	60884	56543	52244	48082
	0～4歳	2315	2074	1925	1763	1610	1457
	5～9	2901	2432	2128	1980	1821	1671
	10～14	3137	2670	2425	2123	1976	1819
	15～19	3474	2580	2296	2078	1815	1687
	20～24	3390	2237	1921	1710	1549	1350
	25～29	2908	2730	2326	2003	1805	1643
	30～34	3268	2818	2761	2375	2058	1859
	35～39	3739	3009	2819	2774	2402	2092
	40～44	4231	3453	2952	2768	2727	2365
	45～49	5055	3868	3407	2921	2736	2699
	50～54	4565	4738	3804	3358	2884	2706
	55～59	4692	4334	4636	3725	3298	2836
	60～64	4920	4545	4304	4609	3704	3282
	65～69	5650	4615	4383	4158	4458	3590
	70～74	5644	5079	4367	4164	3962	4251
	75～79	4586	5380	4630	4009	3839	3666
	80歳以上	8355	8746	9800	10025	9600	9109

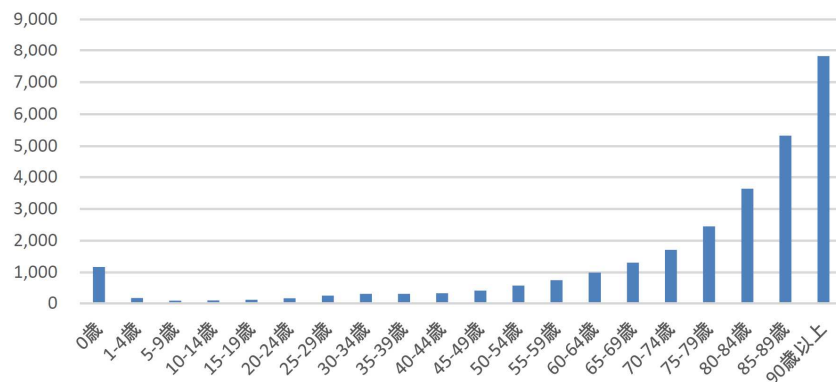
医療需要の変化①

入院患者数は、全体としては増加傾向にある

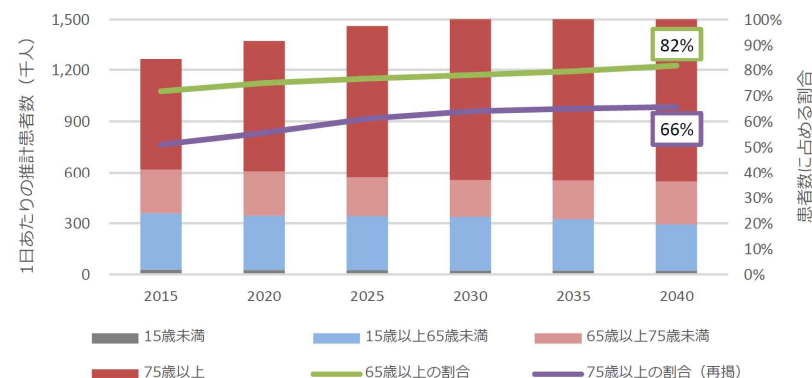
令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1

- 全国での入院患者数は2040年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約8割となるが見込まれる。
- 2次医療圏によって入院患者数が最大となる年は様々であるが、既に2020年までに89の医療圏が、また2035年までには260の医療圏がピークを迎えることが見込まれる。

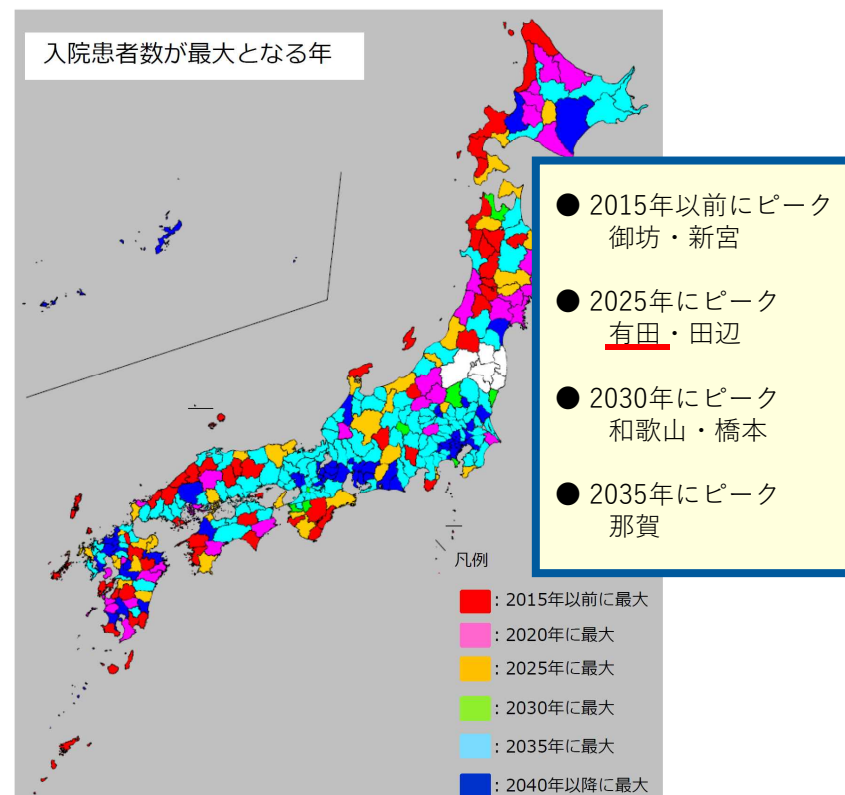
入院受療率（人口10万対）



入院患者数推計



入院患者数が最大となる年



出典：患者調査（平成29年）「受療率（人口10万対）、入院—外来×性・年齢階級×都道府県別」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

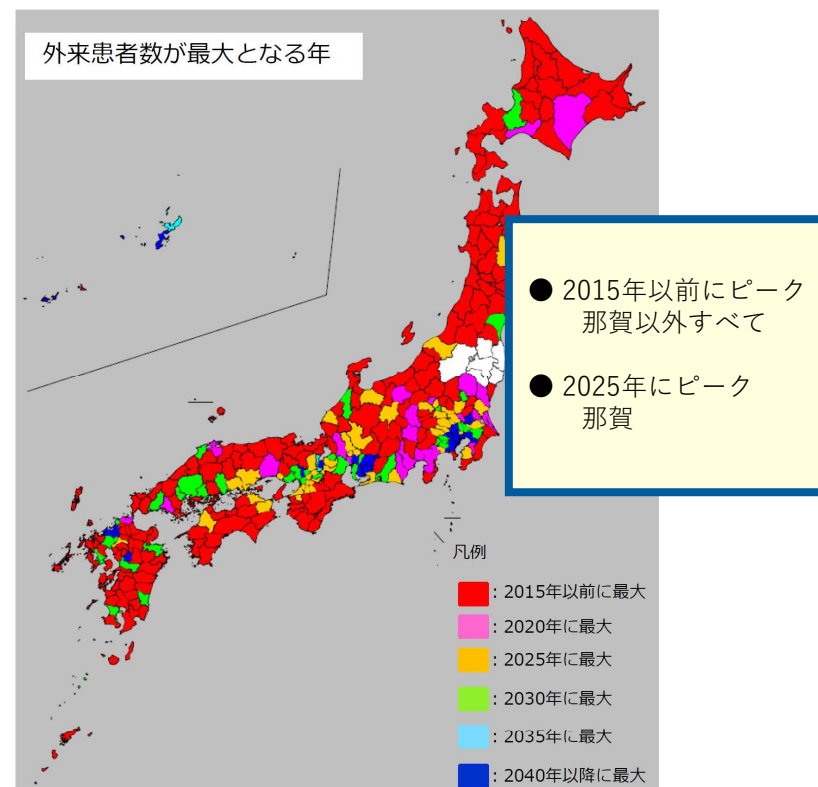
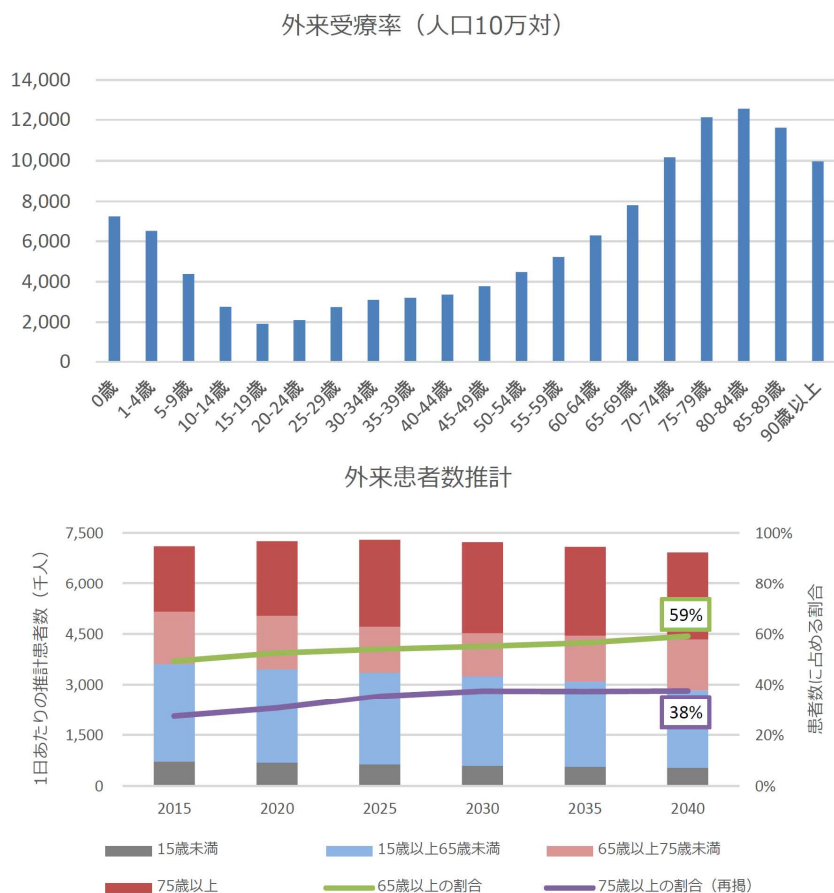
※ 二次医療圏の患者数は、当該二次医療圏が属する都道府県の受療率が各医療圏に当てはまるものとして、将来の人口推計を用いて算出。

※ 福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の二次医療圏を除く329の二次医療圏について集計。

医療需要の変化② 外来患者数は、既に減少局面にある医療圏が多い

令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1

- 全国での外来患者数は2025年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約6割となるが見込まれる。
- 既に2020年までに214の医療圏では外来患者数のピークを迎えていると見込まれる。



出典：患者調査（平成29年）「受療率（人口10万対）、入院－外来×性・年齢階級×都道府県別」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

※「外来」には「通院」「往診」「訪問診療」「医師以外の訪問」が含まれる。

※二次医療圏の患者数は、当該二次医療圏が属する都道府県の受療率が各医療圏に当てはまるものとして、将来の人口推計を用いて算出。

※福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の二次医療圏を除く329の二次医療圏について集計。 91

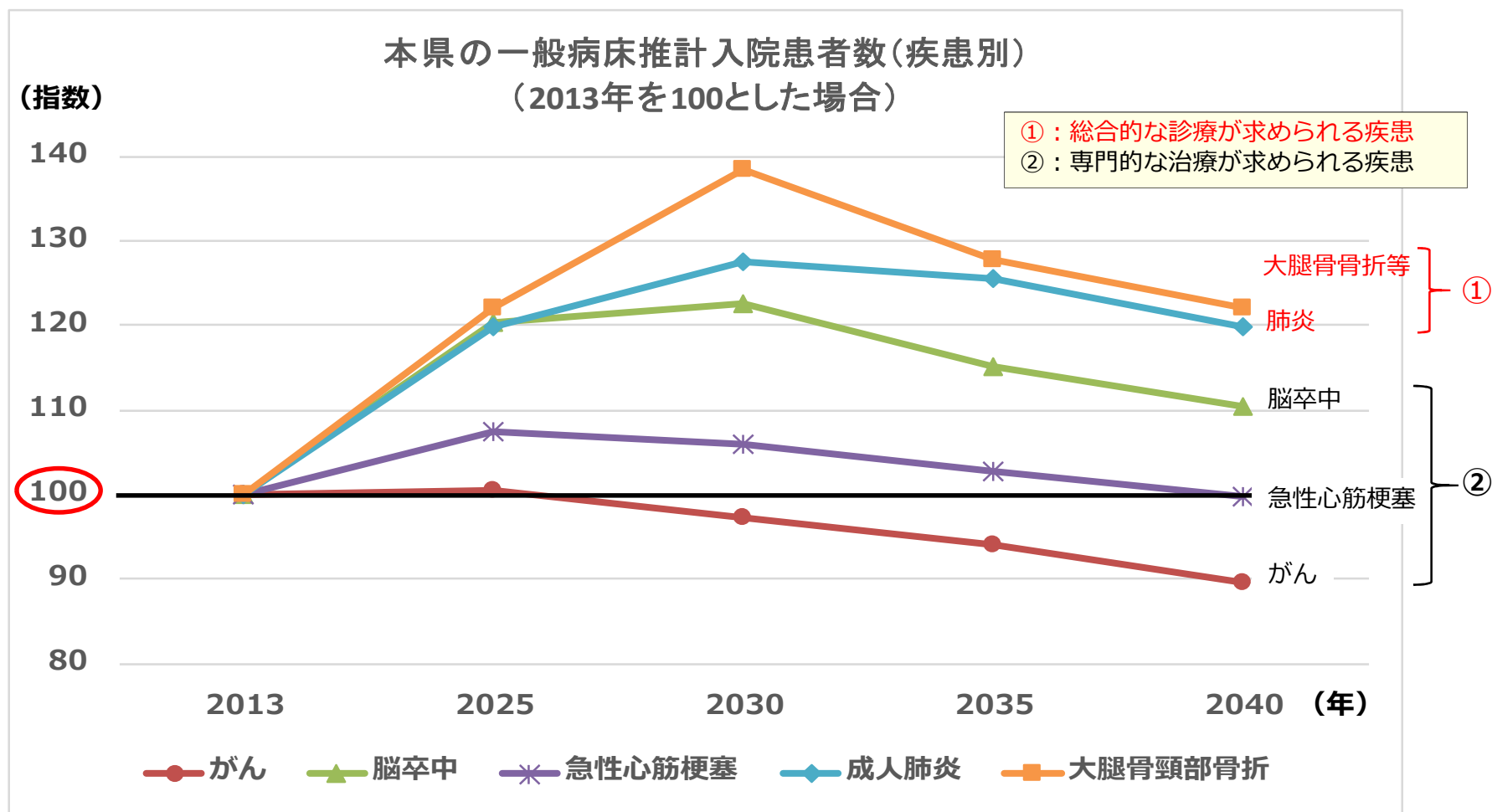
二次医療圏ごとの推計患者数⑤（2025年の患者数を100としたもの）

都道府県名	二次医療圏名	年齢区分	2030年	2035年	2040年
和歌山県	和歌山	入院患者数	100.1	99.1	96.1
		外来患者数	97.2	93.5	90.5
		在宅患者数	108.1	116.8	112.4
和歌山県	那賀	入院患者数	103.6	105.9	105.3
		外来患者数	99.4	96.9	94.3
		在宅患者数	113.0	131.1	135.0
和歌山県	橋本	入院患者数	100.1	98.9	94.4
		外来患者数	95.6	89.3	82.9
		在宅患者数	109.5	122.8	122.8
和歌山県	有田	入院患者数	98.7	97.1	93.2
		外来患者数	95.7	90.2	84.8
		在宅患者数	103.6	113.4	112.6
和歌山県	御坊	入院患者数	97.8	95.5	91.4
		外来患者数	95.3	89.8	84.2
		在宅患者数	101.6	109.3	108.1
和歌山県	田辺	入院患者数	99.5	98.2	95.0
		外来患者数	96.2	91.2	86.4
		在宅患者数	105.0	113.7	112.6
和歌山県	新宮	入院患者数	95.8	91.3	83.7
		外来患者数	92.2	83.7	75.4
		在宅患者数	102.4	108.5	102.0

（出典）患者調査（平成29年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

地域医療構想の必要性 ～人口構造と入院医療ニーズの変化への対応～

- 高度・専門的な治療が求められる（医療資源投入量が多い）疾患よりも、総合的な診療が求められるような（医療資源投入量がそれほど多くない）疾患がボリュームゾーンとなる。
- 減少傾向にある高度・専門的な治療が求められる疾患（症例）が分散すると、次世代を担う医師を育成するための環境を確保できず、県内医療の質の低下や更なる医師不足につながりかねない。



資料：地域医療構想策定支援ツール、平成29年患者調査（厚生労働省）

入院患者の流入・流出

H 2 5 時点（第 6 次計画策定時）

二次医療圏名	人口(人)	流入率(%)	流出率(%)
和歌山	435,538	19.3	6.6
那賀	118,722	18.7	35.3
橋本	93,529	14.7	33.1
有田	78,678	10.7	37.9
御坊	67,243	29.1	19.6
田辺	134,822	12.1	14.3
新宮	73,666	18.3	21.7

(※) 人口は、平成 2 2 年国勢調査による。

(※) 流入率・流出率は、平成 2 0 年「患者調査」による。

H 2 9 時点（第 7 次計画策定時）

二次保健医療圏名	人口(人)	流入率(%)	流出率(%)
和歌山	425,220	19.9	7.7
那賀	116,068	23.3	35.6
橋本	88,342	19.8	51.7
有田	74,255	10.4	37.6
御坊	63,603	29.0	19.6
田辺	128,161	7.8	14.8
新宮	67,930	21.1	16.8

(※) 人口は、平成 2 7 年国勢調査による。

(※) 流入率・流出率は、平成 2 6 年「患者調査」による。

R 4 時点

二次保健医療圏名	人口(人)	流入率(%)	流出率(%)
和歌山	413,354	21.3	10.8
那賀	112,783	30.6	32.1
橋本	83,611	18.0	35.1
有田	69,699	15.0	38.2
御坊	60,324	25.2	25.3
田辺	120,871	10.3	13.9
新宮	61,942	16.3	23.5

(※) 人口は、令和 2 年国勢調査による。

(※) 流入率・流出率は、平成 2 9 年「患者調査」による。8



平成29年度_和歌山県版二次医療圏別受療動向分析ツール（H28 NDB 実績）

区分	和歌山	有田	御坊	田辺	総計
高度急性期 流出	89.3%		10.7%		346
高度急性期 流入					
回復期 流出	10.4%	85.7%	3.9%		2,249
回復期 流入	1.8%	98.2%			1,963
慢性期 流出	10.4%	83.4%	2.8%	1.5%	2,424
慢性期 流入	6.1%	77.2%	11.3%	4.0%	2,618
一般入院基本料 流出	24.3%	66.5%	8.6%	0.2%	7,576
一般入院基本料 流入	1.7%	95.4%	2.6%	0.4%	5,277

R3 病床機能報告より

	有田市立病院				済生会有田病院						西岡病院				有田南病院			桜ヶ丘病院		
	施設全体	東4	東3	東5	施設全体	一般病棟(3階)	一般病棟(4階)	一般病棟(5階)	回復期リハビリテーション病棟	地域包括ケア病棟	施設全体	急性期病棟	回復期リハビリテーション病棟	療養病棟	施設全体	一般病棟	療養病棟	施設全体	医療療養病棟	特殊疾患病棟
		急性期	回復期	回復期		急性期	急性期	急性期	回復期	回復期		急性期	回復期	慢性期		回復期	慢性期		慢性期	慢性期
病床数	153	54	45	54	184	35	34	35	40	40	120	32	28	60	71	26	45	99	50	49
主な診療科		複数の診療科で活用	内科	複数の診療科で活用		外科	整形外科	内科	整形外科	内科		複数の診療科で活用	複数の診療科で活用	複数の診療科で活用		内科	内科		内科	内科
新規入棟患者数(年間)	2,195	1,265	222	708	2,398	884	561	576	53	324	764	553	153	58	280	182	98	270	201	69
うち予定外の救急医療入院の患者	598	557	25	16	308	102	95	111	0	0	105	105	0	0	48	48	0	9	9	0
入院元	家庭 1302	家庭 961	家庭 175	院内 522	家庭 1612	家庭 798	家庭 434	家庭 310	院内 282	院内 247	家庭 382	家庭 381	院内 152	院内53	病院 119	病院 119	院内98	介護施設165	介護施設128	介護施設37
退院先	家庭 1246	院内 576	家庭 233	家庭 493	家庭 1556	家庭 731	院内 255	家庭 208	家庭 203	家庭 183	家庭 385	家庭 266	家庭 106	死亡35	院内98	院内98	死亡45	死亡105	介護施設76	死亡45

R4病床機能報告より 各病院の類似点 例

整形外科手術実施:

有田市立病院、済生会有田病院、西岡病院

腹部手術実施:

有田市立病院、済生会有田病院、西岡病院

リハビリテーション実施: 5病院

回復期リハビリテーション病棟: 済生会有田病院、西岡病院

透析: 西岡病院、有田南病院、桜ヶ丘病院



- ・役割分担できることはないか
- ・連携できることはないか
- ・コロナ**2019**や今後発生する感染症対応を見据えた医療提供体制の構築